



スポーツには人々との心をなく不思議な力がある。スリランカでバレーボールは国技、フットボールは国民的人気のあるスポーツの一つだ

師のスニル・シャリタさんの

「さあ、始めるよ！」  
そう叫ぶのは、2008年6月  
からコーチを務めていた青年  
海外協力隊の佐藤敏さんだ。彼  
の掛け声に子どもたちの顔がき  
ゅつと引き締まり、準備運動が  
始まった。

セントマシューズ・カレッジにバレーボール部ができたのは15年前、今でも佐藤さんと二人三脚で指導に携わる、体育教師のスニル・シャリタさんの

ルから内陸に約2時間の小さな町、デニヤヤ。鮮やかな緑の  
だんだん畑が広がる、紅茶のプ  
ランテーションで有名な地域  
だ。

車であつたついで、突然、道  
路脇にたつた広い空き地が現  
れた。そこは、小中高一貫校「セ  
ントマシューズ・カレッジ」の  
グラウンド。日本の学校と広さ  
は変わらないが、遊具などはな  
い。日よけ用の小屋もなく、一  
面が太陽さらされた状態だ。

よく見てみると、木造のボー  
ルにバレーボールのネットが張  
られている。その日は土曜日、  
学校が休みにもかかわらず、お  
昼を過ぎると二人、二人と、子  
どもたちが集まってきた。今日  
はこれからバレーボール部の練  
習があるという。



## スポーツを通じて 新たな道を切り開く

2009年5月、四半世紀にわたる民族紛争が終結したスリランカ。

今まさに復興の真っただ中にあるこの国が取り組むべきことは、国の未来を支える“人づくり”。  
それに多大な貢献をしているのが、青年海外協力隊が取り組む“スポーツ”だ。

### ☆光り輝く島、スリランカ

2月中旬、コロンボ空港に降り立つと、もわっと生温かい空気が肌に触れた。目を開けていられないほどの強烈な日差し。「ちょっと前までは強風じゃなかったんだけどね。これからどんどん暑くなるよ。人々は口々にそう言う。冬真っただ中の日本から来ると、その暑さがジリジリと突き刺さるように痛く感じる。

光り輝く島、スリランカは、シンハラ語でそう表現される。旧首都コロンボから海岸線へ南下していくと、なるほど、この言葉に象徴されるように、キラキラ光る美しい海が見えてきた。

しかしここは、2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波災害で多くの人が命を落とした場所。被災した状態のまま、骨組みがむき出しの建物が残っている場所もある。車窓を眺めながら当時の惨状を想像するだけで、背がゾクゾクとした。

### バレーボールで民族融和を

「エカ、デカ、エカ、デカ（イチ、ニ、イチ、三……）」  
グラウンドを走る子どもたちの元気な掛け声が、真つ青空に響き渡る。南部州の州都ゴ

提案があった。「ボールつあればできる。それがバレーボールだったんです。」  
「次は、一つずつボールを持ってきてよ！」

準備運動の後は、サーブ、レシーブ、トスの練習だ。

佐藤さんはとにかく、基礎練習に時間をかける。そしては試合に勝つために必要なことだ。

「最初はボールが一つしかなく、ゲームも練習ができなくて、でもきちんと基礎から固めていくためには、ある程度の数が必要でした。」  
しかし、やはり高価なもの。どうしようかと悩んでいた。日本の友人とNPO法人フレンドリー岐阜の方が協力してくれることになって。今では、佐藤さんの仲間の思いが詰まった10個のボールで練習に励んでいる。

スニルさんの思いは「とにかく強いチームにしたい」。でも佐藤さんは、練習に強くなるためには、練習を強化するだけではだめ。スポーツマンとして、規律を守ることも大事だと考えた。グラウンドにはゴミをポイ捨てしない、練習中はガムをかまない、「大きい子

ゴールに向かう途中の海岸線には、所々に津波の爪あとが残っている





「何がその状況を改善しよう  
と、石垣さんがスタッフのラシ  
カー・キーター・スピンを取り組  
んでいるのが、スポーツを通じ  
たレクリエーション活動だ。二  
日中、施設で過ごしているも  
精神的に不安定になってしまっ  
て健康にもよくない。でも太陽  
の下で体を動かせば、心身とも  
にリフレッシュできますよね」



(上) スパインズの視覚的に動く彼女たちは、終わりのない作業に、何を思っているのだろうか  
(下) 石垣さん(30歳・山形県)は日ごろから入所者とのコミュニケーションを心がけ、1度入所者から向き合っている。だんだん心を開いてくれるようになります

「将来の希望が持てない女性  
たち。」「職業訓練にも参加せ  
ず、一ヶ月ごとと通っている  
人もいます。特に精神障がい  
のある入所者に対しては、どう  
せでまわらないから」とあきらめて  
しまっている先生もいるん  
です」

「一番好きな」とはにかみながら  
話してくれたのは、シンガティ・  
クマリーさん(19)。「みんな  
一緒にできるのが、とてもうれ  
しいんです」

「スポーツを通して目の問題と  
向き合い、新たな道を切り開い  
ていきたいです」

(右) 体育担当のラシカーさん(左)と入所者たち。みんなで過ごす楽しい時間、自然と笑顔がこぼれてくる  
(左) 「サリティアチャー」石垣さんの周りにいつとも人が集まない

を派遣。しばらく中断していた  
が、09年月から再び石垣小百  
合さん、青少年活動が施設の  
運営をサポートしている。  
複雑なバックグラウンドを持  
つ人々を、共同生活は容易  
ではない。けんかやめ事は日  
常茶飯事。更生施設だけに、  
裁縫やスパインズの益々多量の  
職業訓練が行われているもの  
の、一度入ると出所するのが難  
しいのが現状。きちんとした身  
元引受人がないと、また同じ  
問題を繰り返してしまふ可能性  
があるからだ。

「スポーツです」と、気分が  
落ち着くんですよ。」「気分が  
入所者のスリナ、マーガレット  
さん(34)。うつの症状があり、  
部屋の隅で涙を流しているこ  
も多しという。「実は、今まで  
スポーツはあまり経験がなかつ  
たんです。でも、サユリが丁寧  
に教えてくれて、だんだん楽し  
くできるようになりました」  
「スポーツをす」と、気分が  
落ち着くんですよ。」「気分が  
入所者のスリナ、マーガレット  
さん(34)。うつの症状があり、  
部屋の隅で涙を流しているこ  
も多しという。「実は、今まで  
スポーツはあまり経験がなかつ  
たんです。でも、サユリが丁寧  
に教えてくれて、だんだん楽し  
くできるようになりました」

「スポーツをしている時、彼  
女たちは施設の中と別人のよ  
う。本当に生き生きしています  
。友達を作ることに、ルールを  
守ること、みんなで協力してや  
ること。学ぶことはたくさんあ  
って、更生のツールにもなって  
います」  
スポーツには不思議な力がある  
。ケミカルとシナハラの人  
子どもたち、そして、更生施設  
で過ごす女性たちを見ていて、  
とても強く感じた。彼らは確かに、  
スポーツを通じて目の問題と  
向き合い、新たな道を切り開い  
ていきたいです」

(右) ボールの掛け時計は佐藤さんのもの。時間を守る習慣がないため、練習もルールになりがち。常に時間を意識する習慣を身に付けさせるのもので「  
(左) 佐藤さんの仲間から贈られたボールは子どもたちの宝物。「大切にしよう。実は数個は倉庫にしまっておくんです」

「小さい子に教えてあげる」  
片付けはみんなです。当  
り前のことができていない子ど  
もたちに、厳しく伝え続けた。  
最初は嫌ごうたりスルをしり  
する子もいた。しかし、次第に  
彼らは変わっていった。  
そして一つ、佐藤さんが  
力を入れたことがある。それ  
は、バレーボール部をタミル  
人とシンハラ人。交流の場  
にするのだ。この学校はスリ  
ランカで珍しく、両民族が同  
じ校舎で学んでいる。しかし授  
業は別々に行われているため、

「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」  
「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」

「「スポーツをす」と、気分が  
落ち着くんですよ。」「気分が  
入所者のスリナ、マーガレット  
さん(34)。うつの症状があり、  
部屋の隅で涙を流しているこ  
も多しという。「実は、今まで  
スポーツはあまり経験がなかつ  
たんです。でも、サユリが丁寧  
に教えてくれて、だんだん楽し  
くできるようになりました」  
「スポーツをす」と、気分が  
落ち着くんですよ。」「気分が  
入所者のスリナ、マーガレット  
さん(34)。うつの症状があり、  
部屋の隅で涙を流しているこ  
も多しという。「実は、今まで  
スポーツはあまり経験がなかつ  
たんです。でも、サユリが丁寧  
に教えてくれて、だんだん楽し  
くできるようになりました」

「小さい子に教えてあげる」  
片付けはみんなです。当  
り前のことができていない子ど  
もたちに、厳しく伝え続けた。  
最初は嫌ごうたりスルをしり  
する子もいた。しかし、次第に  
彼らは変わっていった。  
そして一つ、佐藤さんが  
力を入れたことがある。それ  
は、バレーボール部をタミル  
人とシンハラ人。交流の場  
にするのだ。この学校はスリ  
ランカで珍しく、両民族が同  
じ校舎で学んでいる。しかし授  
業は別々に行われているため、

「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」  
「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」

「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」  
「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」



「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」  
「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」

「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」  
「バレーボールの面白さは、  
現在、チームの最高成績は全  
国三位。もちろん、目指すは全  
国制覇だ。でも佐藤さんは負  
けてもいいんです。みんな協  
力して一生懸命やること、喜  
びや悲しみを分かち合うこと  
に意味がある。でもそれができ  
ようになれば、簡単に負けない  
自信があります」

(右) ボールの掛け時計は佐藤さんのもの。時間を守る習慣がないため、練習もルールになりがち。常に時間を意識する習慣を身に付けさせるのもので「  
(左) 佐藤さんの仲間から贈られたボールは子どもたちの宝物。「大切にしよう。実は数個は倉庫にしまっておくんです」

